

「自分」

3年 M.T

「過去をふり返る」という行為は、時に楽しく、時に辛いものだと思います。例えば、好きなアーティストのライブに行ったことをふり返るのは、とても幸せです。そのときの感情やライブならではの高揚感を思い出すのは楽しくて仕方ありません。しかし、誰かに怒られた時のことや、飼っていたペットが死んでしまったことを思い出すのは、どこにも面白みなどなく、辛いものです。そして私は、小学生のときの自分を思い出すのも辛いです。この感話では小学生の自分、今の自分、これからの自分について書いていきます。

小学生のときの私は、本当に自分勝手に平気に人を傷つける嫌な「やつ」だったと思います。小学校には保育園から一緒だけれどいつもけんかばかりしている子がいて、その子とは一年生から四年生までずっと同じクラスでした。その子は本当に意地悪な子で、何度もありもしない私のうわさなどを他の女子や男子に流し、私を孤立させようとしてきました。私は心の底からその子のことが嫌いで、私のことが嫌いでそういうことをするのだから、だったらもう一切私に関わらないでほしいと何回も言ったのですが、やはりその子は私に何かといろいろ言うてきました。わたしはその子とその子の仲間のおかげでとても傷ついたし、いらいらしました。友達も信用できなくなり、学校が嫌いで嫌いでしょうがなかったです。担任に相談しても何も解決なんてしてくれず、ただ学校が嫌いになる一方でした。しかし私も結局その子と同じようことを他の子にやっていました。うわさなどは流さないけれど、その子に言われて自分が傷ついた言葉を、他の子に言ったことがありました。今思うと、「ああなんでわざわざ自分が言われて嫌なことを他の子に言うてしまったのだろう。」という後悔しかないし、そのときの自分が大嫌いです。その意地悪な子に傷つくこと・嫌なことをたくさん言われたことから生まれたストレスを他の子にぶつけるのは本来やってはいけないことだし、私は、私に嫌なことを言われた相手にとってその意地悪な子と一緒にいた。これだけではなく、私はもっとたくさんひどいことをした覚えがあります。それはもう口にするのが本当に嫌なレベルのものです。そのときのことはもう思い出したくもありません。だから私は、小学校のときをふり返るのが辛いです。うわさによって陰でいろいろな悪口を言われる怖さ、意地悪なその子とその子の仲間によってされたこと、そして自分が何人もの友達にしてしまったあやまちを思い出すのが、何回も言うようですが本当に辛いのです。

だから私は恵泉に入る時、自分を変えようと思いました。小学校ではあまり出せなかった、おしゃべりで明るい本来の自分の部分をもっと出していこう、自分から積極的にたくさんの人に話しかけてみよう。今の自分は小学生の時の自分より、多少は人の気持ちを考えられるようになり、友達も増え、のびのびと過ごしていると思います。自分の好きなことをたくさんするようになり、また、嫌なことを他人に言うことは減りました。自分が変わろうとするだけでこんなにも違うのかと驚きました。恵泉のみんなは優しくてノリの良い人が多く、悪口を言う人も少ないです。こんな環境の中で過ごせることを幸せだと思

わなければいけないなと思います。もう小学校を卒業して三年経とうとしています、まだ私は、小学校の子と会うことにためらいがあります。仲が良かった子と会うのは全然問題ないですが、同窓会だと仲良しばかりではなく、私が嫌いだった子、私のことが嫌いだった子、私が傷つけてしまった子など、辛い過去を思い出してしまうような人達がたくさんいるので、なかなか参加できずにいます。もう少し大人になったらまた気持ちや考えが変わって、みんなと自然に会っているかもしれないですが、今の気持ちのうちは、無理にみんなと会わなくても良いかな、と思ったりもします。

恵泉に入り、「人にしてもらいたいと思うことを人にもしなさい」という言葉に出会い、自分がやられた嫌なことは絶対に人にしてはいけないという気持ちが強くなりました。最近、夜布団に入ったら一日のことをふり返って、今日の私の〇〇ちゃんへのこの発言はどうだったんだろう。傷つけちゃったかな、大丈夫かな。次もし同じような場面になったら、今度はこう言おう。などということを考えるようにしています。人から嫌なことを言われる気持ち、人に嫌なことを言ったあとの気持ちを知っているからこそ、これから出会う人、関わっていく人とよりよい関係を築いていくことができるのかなとも思います。

今回の感話で、久しぶりに過去をふり返りましたが、やはりいつふり返っても私はひどい「やつ」でした。昨日の自分は、今日の自分は、明日の自分は、五年後の自分は、小学生の自分よりひどい「やつ」ではないことを目指して、たくさんの人に接していきたいです。